

# 学まちチャレンジ！プロジェクト

## 学生から応募される自主的な地域連携活動を支援

本プロジェクトは、2020年度から2023年度まで京都市「学まち連携大学」促進事業に採択された取り組みの一つとして実施してきたもので、事業終了後も本学独自に継承し、実施しているものです。2025年度もそれぞれのグループがプロジェクトを通して自主性・企画力・課題解決能力・コミュニケーション能力を培い、得意なことや学んだことを活かして地域の課題解決にチャレンジしました。

### ①自由テーマ型

「こどもの居場所をつくりたい」「まち歩きマップをつくりたい」など、同じ思いをもった仲間を集めてプロジェクトを立ち上げるものです。

**応募資格** 本学の学生(学部生・大学院生)で原則3名以上のグループ

| NO. | チーム名              | プロジェクト名                                | 概要                                                                       |
|-----|-------------------|----------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 1   | にじいろスマイル隊         | 命の大切さを知ろう！                             | 保護者や保育者と連携をとりながら、「命の大切さ」や「自分の体を大切にすること」を中心に幼児向け性教育を行うプロジェクト              |
| 2   | Team Effectors    | 持続可能な商店街の地域活性化                         | 伏見区納屋町商店街において、プロジェクトマップや生成AIを用いて、人口減少下でも持続可能な地域活性化を目指すプロジェクト             |
| 3   | ピアカウンセリングサークル     | #良い関係ってどんな関係？～みんなで話そう、自分も相手も大切にできるヒント～ | 思春期ピアカウンセリングをベースに、中学生～高校生へデートDVについての正しい知識と「自分を大切にすること」は何かを伝えるプロジェクト      |
| 4   | OSJ 橘             | 楽しくしっかり学ぼう！                            | 地域の方に向けて、書道を楽しく学んでもらうための書道教室や書道イベントを実施するプロジェクト                           |
| 5   | アフリカンキッズサポーターズ    | アフリカン★デジタルラボ<br>～音楽とゲームで遊んで学ぼう！～       | アフリカンキッズクラブ(AKC) 関西と連携し、在日アフリカ人家庭の子どもが安心して自分らしく過ごし、学ぶことができる機会を提供するプロジェクト |
| 6   | 京炎そでふれ！部 Tacchi   | 山科のお祭りを盛り上げたい                          | 高齢化によるお祭りの担い手減少という課題に対し、演舞を通じた交流でお祭りを盛り上げ活性化化するプロジェクト                    |
| 7   | 考古学研究室山科遺跡魅力発掘チーム | 山科「ふるさとの会」と連携した山科の歴史遺産魅力発掘プロジェクト       | 山科の歴史遺産巡りのパンフレットを作成、遺跡出土品の展示を通じ、地域のふるさとの魅力発掘に貢献するプロジェクト                  |
| 8   | 吹奏楽部              | おとでつながる！<br>こども音楽体験プロジェクト              | 部活動の地域移行が導入される年代の就学前後の子どもたちへ音楽に触れる機会を提供し、文化芸術に親しむことを目指すプロジェクト            |
| 9   | smile(看護学科有志)     | 10時だよ！全員集合！<br>伸ばそう健康寿命                | 地域の高齢者一人ひとりが健康について意識を向け、自ら健康を獲得できるように健康教育を実施するプロジェクト                     |
| 10  | 防災サークルFAST        | 備えようその瞬間                               | 災害や救急医療に関する知識と技術を共有することで、予測不能な大災害に備え周りの人を助けられる人材を育成するプロジェクト              |

### ②テーマ設定型

連携機関とともに地域の活性化を目的とした活動を行う参加者を募集するものです。

本学のメンバーと連携機関の職員の方々とが協働し、地域活性化のためのプロジェクトを作り上げていきます。

**応募資格** 本学の学生(個人・グループとも可)

| NO. | プロジェクト名          | 概要                                                                      |
|-----|------------------|-------------------------------------------------------------------------|
| 1   | コミュニティ・バンク京信連携   | コミュニティ・バンク京信山科支店と連携し、イベントを通じて健康や生活の安全の大切さを地域の方々に発信するプロジェクト              |
| 2   | 山科区役所連携          | 中学生・高校生年代に向けたフリースペース「ゆうすぺーすやましな」の利用促進を目的に、中高生年代に向けた周知広報やイベント企画を行うプロジェクト |
| 3   | 醍醐いきいき市民活動センター連携 | 醍醐周辺地域の子ども・子育て世代の交流を目的としたイベントに参加し、若者世代の集まる仕組み作りを考えるプロジェクト               |

- 実施地域・場所  
京都市左京区（ふたば幼稚園）
- 参加学生数  
14名

# 命の大切さを知ろう！

## にじいろスマイル隊

### 幼児期に寄り添う、体験型の性教育プロジェクト

本プロジェクトは、地域の幼稚園と連携し、幼児期の発達段階に応じた性教育を実践することを目的として実施しました。近年、性に関するトラブルの低年齢化や、家庭で性について話す難しさが指摘される一方で、「自分の体を大切にすること」や「大切に育てられてきた存在であること」を幼児期から伝える重要性が高まっています。そこで、将来、看護・助産に携わる看護学部看護学科の学生が中心となり、京都市左京区の幼保連携型認定こども園ふたば幼稚園にて年少・年中・年長向けのプログラムを実施しました。それぞれの学年の発達段階に合わせて内容や体験を工夫し、乳幼児の人形を用いたミルクのあげ方、心臓の音を聴く体験、抱っこの方法、おむつ交換などを取り入れた学びの場を提供しました。また、保護者の皆さまにはビデオ教材を用いた講義を実施し、家庭で性教育を伝える際のポイントやプライベートゾーンの伝え方について学んでいただく機会を設けました。

### 園児・保護者の変化と学生の学び

活動後、園児からは「楽しかった」「家でもやっている」などの声が寄せられ、楽しみながら自分の体や命について前向きに受け止める様子が見られました。保護者アンケートでも、「子どもに分かりやすく伝えられそう」「幼児期からの性教育の大切さに気づいた」など肯定的な意見を多くいただきました。学生にとっても、性教育は単なる知識の伝達ではなく、子どもが「自分は大切にされている」と実感できる関わりであることを学ぶ貴重な経験となりました。日常的な体験を通じることで、子どもたちが自然に命や体の話を受け止めていく姿に触れ、将来専門職を目指す上での学びが大きく深まりました。

### 今後の課題と継続に向けた展望

一方で、保護者の関心が高いにもかかわらず、「どこまで、どのように伝えればよいか分からない」という不安が大きいことや、単発の学びでは家庭での実践につながりにくいことなどの課題も明らかになりました。今後は、幼稚園との継続的な連携を進め、成長段階に応じて繰り返し学べる機会を設ける仕組みづくりが必要であると考えています。また、家庭で使える声かけ例や資料の配布、SNSや動画の活用、相談しやすい場づくりなど、保護者が実践に取り組みやすくなる支援も重要です。今回の経験と課題を踏まえながら、子どもと保護者が安心して性について学べる取り組みを、今後も地域とともに発展させていきたいと考えています。



学生が丁寧にレクチャー



興味津々な園児の様子



- 実施地域・場所  
京都市伏見区(納屋町商店街)
- 参加学生数  
4名

# 持続可能な商店街の地域活性化

## Team Effectors

### 商店街を元気にしたいという思いから始まった試み

近年、商店街は人口減少やネット通販の普及により人通りが減り、地域のつながりをどう保つかが大きな課題となっています。地域の魅力を発信できるキャラクターの活用が注目されていますが、商店街が主体となって活用を続けていくには人手や技術の面で難しさがあり、外部支援が終わると活動が続かないという側面もありました。そこで、工学部情報工学科の学生が主体となり、京都市伏見区の納屋町商店街の皆さまにご協力いただき、商店街のキャラクター「なやまっち」を活用できるようにするため、2D・3DモデルやAI、CGアニメーション、プロジェクションマッピングなど5つのデジタルコンテンツを制作しました。

### イベントを通じてデジタルコンテンツを実装

制作開始から段階的に成果物を提示したことで不安が解消され、「操作が簡単で使いやすい」「イベントで活用したい」といった前向きな声をいただきました。制作したデジタルコンテンツを実装するため、11月16日(日)に「伏見モノガタリ・デイ『なやまっち人形劇&影絵上映会』」に向けて、プロジェクションマッピングと、商店街の情報を発信するChatbotを作成しました。プロジェクションマッピングの上映では、BGMとナレーションを合わせて納屋町商店街の歴史を紹介し、ご好評いただきました。実装の手ごたえを感じると同時に、デジタルに不慣れな方には利用が難しい場面もあり、商店街内に技術をつなぐ「橋渡し役」が必要であることも見えてきました。



なやまっちとチャット

### 持続可能な形をめざして

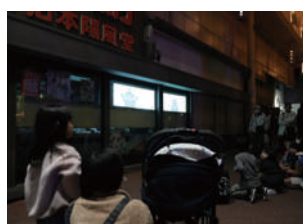
今回の取り組みを通して、地域の活動を続けていくためには「高度な技術」よりも「使い続けられる仕組み」が大切だと実感しました。とくに、支援が終わったあとも負担なく運用できる仕組みづくりや、制作過程を丁寧に提示し続ける姿勢が信頼につながることを学びました。また、すべてを複雑にせず、あえて“改変不要のシンプルな形”にすることが、現場の使いやすさ・安心感につながることもわかりました。今後は、商店街内で技術を引き継ぐ人材育成やサポート体制の整備に力を入れながら、地域に根づくキャラクター活用の形をさらに広げていきたいと考えています。



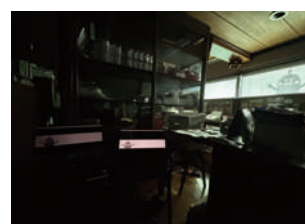
商店街の一角で実施



プロジェクションマッピング



上映の様子



店舗をお借りしたバックヤードの様子



# #良い関係ってどんな関係？～みんなで話そう、 自分も相手も大切にできるヒント～

ピアカウンセリングサークル

- 実施地域・場所  
京都市山科区  
(山科青少年活動センター)
- 参加学生数  
5名

## 地域の若者支援ニーズを踏まえた取り組みの背景

昨年度本プロジェクトに参加し、中高生に向けた子宮頸がんに関する啓発活動を行う中で、中高生が大学生を「年齢が近く相談しやすい相手」と捉えていること、また生理や恋愛など身近な悩みを話せる場が地域に十分に存在していないことが明らかになりました。また、活動拠点となった「山科青少年活動センター」ではパートナーと来場する若者も見られ、対人関係に関する支援の必要性を強く認識しました。外部調査においては、中高生の一定数が交際経験を持ち、デートDVに該当する行動を経験している可能性が示されています。これらの背景を踏まえ、若年層が健全な関係性を学ぶ機会を地域に提供したいと考え、今年度のプロジェクトテーマを決定しました。

## 地域のを活用した啓発活動の実施

こうした背景を踏まえ、今年度も昨年度の活動と同様に山科青少年活動センターにてクリスマスイベントを企画・主催し、楽しい雰囲気の中でデートDVについて考える機会を設けました。当日はお菓子やジュースを囲みながら、ゲームを通して参加者同士が自然に会話し、互いの考えを共有できるような雰囲気づくりに努めました。サークルが自作した双六やカードゲームは、デートDVに関する基本的な気づきを得られる内容であり、遊びの要素を取り入れることでテーマへの心理的ハードルを下げ、参加した中高生が大学生という近い立場から無理なくコミュニケーションをとれるよう工夫しました。

## サークルとしての振り返りと今後の展望

今回の活動を通して、ピアカウンセリングサークルはデートDVという概念を中高生に理解してもらう難しさを実感しました。双六やカードゲームは参加しやすい一方で、内容とデートDVとの関連を補足説明する必要があり、今後はゲーム後にパンフレットと併せて簡潔な解説を行うなど工夫していきたいと考えています。また、性に関する内容なので、性の多様性に配慮した声掛けや事例選定の重要性も再確認しました。今回は単発のイベント実施でしたが、継続的な取り組みを通じて中高生との関係を深め、より安心して参加できる場づくりを進めていきたいと考えています。



すごろくを作成



クリスマスイベントのチラシ

- 実施地域・場所  
京都市山科区
- 参加学生数  
30名

# 楽しくしっかり学ぼう！

## OSJ 橘

### 書道の魅力を地域へ伝える取り組み

OSJ 橘は、文学部日本語日本文学科書道コースの学生を中心とした学生団体で、O:おもしろい、S:しっかり学べる、J:字がうまくなるの頭文字を取って名付けられました。学校教育でのICT機器の普及により筆を持つ機会が減っている現状を受け、書道の魅力を地域に広く届けることを目的に活動してきました。特に子どもたちには、文字の上達や基礎の習得だけでなく、書道がもつ集中力を育む力も体験してもらうことを大切に、講義や部活動で培った知識を活かし、地域に根差して活動を続けています。



ワークショップの様子

### イベントを通じた広がり学び

毎月2回の「たちらボ書道教室」をはじめ、地域イベントでのワークショップや書道パフォーマンスなど多様な企画を実施し、年間のべ371名に参加いただきました。参加者からは「久しぶりに筆が持てて楽しかった」「また参加したい」といった声をいただき、書道への関心が高まったことを実感しています。活動の広がりとして、京都橘大学まちづくり研究会、イオンタウン山科樹辻、音羽リハビリテーション病院、さらに龍谷大学の真鍋ゼミとの連携も生まれました。また、東本願寺でのワークショップなど、山科区外でも地域の方と直接交流できる機会が増え、子ども向けイベントから高齢者施設での書道パフォーマンスまで、幅広い年代の方に書道の魅力を伝えることができました。また、SNSでは毎月の「たちらボ書道教室」やイベント参加の告知にとどまらず、書道やOSJ 橘を身近に感じていただけるように工夫した投稿を行っています。



たちらボ書道教室

### 見えてきた課題とこれからの展望

活動を続ける中で、参加者の増加に対し会場が手狭であったことや、運営メンバーが固定化し負担が偏りやすいという課題が明らかになりました。今後は広い会場の確保や参加人数の調整、メンバー間の役割分担を進め、より安定した運営体制を目指します。また、これまでの経験を踏まえ、将来的には私たち自身が主体となるイベントを企画し、地域とのつながりをさらに深めていきたいと考えています。



書道パフォーマンス



SNSにも注力

# アフリカン★デジタルラボ ～プログラミングとゲームで遊んで学ぼう！～

アフリカンキッズサポーターズ

- 実施地域・場所  
京都市下京区  
(キャンパスプラザ京都)
- 参加学生数  
4名

## アフリカにルーツを持つ子どもと地域の関わり

本プロジェクトでは、アフリカンキッズクラブ関西(以下、AKC 関西)と連携し、「プログラミング教室」と「eスポーツ体験」を組み合わせた文化交流・学習イベント「アフリカン★デジタルラボ ～プログラミングとゲームで遊んで学ぼう！～」を開催しました。在日アフリカ人家族やアフリカにルーツを持つ子どもたちは、日常生活の中で孤立感を抱きやすく、また、教育的な体験の機会を得にくいという課題があります。そこで情報工学科で学ぶ学生の専門性を生かし、デジタル分野を入口として地域とAKC 関西の子どもたちがともに楽しく学べる場づくりに取り組みました。ロボット教材を使ったプログラミング体験では、試行錯誤しながら学べる構成を意識し、アフリカをテーマにしたクイズも取り入れることで文化への興味を広げられるよう工夫しました。また、Nintendo Switch Sportsを用いたeスポーツ体験では、勝敗よりも交流を大切に、参加者同士が声を掛け合いながら楽しめる雰囲気づくりを心がけました。



自然と交流が生まれました

## 自然に交流が生まれるプログラミング教室

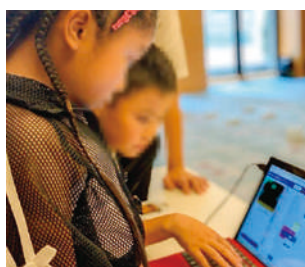
イベントには保護者6名、子ども6名が参加し、どの活動にも主体的に取り組む姿が見られました。ロボットを操作しながら何度も挑戦する様子や、ゲームを通じて自然に交流が生まれる様子が印象的で、子どもたちが楽しみながら学んでいることを実感しました。また、文化クイズをきっかけにアフリカについて関心を寄せる姿も見られ、単なる体験にとどまらない学びが生まれたことが成果の一つです。本プロジェクトを通じて大学の専門性をAKC 関西と地域を結ぶ交流活動に活かす新たな可能性が広がりました。一方で、スタッフ間での目的共有や役割分担が不十分であったこと、限られた時間の中で意図を十分に伝える難しさなど、運営面の課題も明らかになりました。地域の方と協力しながら進めることの大切さを学ぶ貴重な機会にもなりました。

## 持続的な学びの場をめざして

活動を通して、子どもたちが継続して段階的に学びを深められる環境づくりが必要だと感じました。今後は本イベントを定例化して実施できる体制づくりとして、運営体制の整理やスタッフ間の情報共有を強化していきます。さらに、大学の専門性や学生の力を活かしてより多くの参加者を呼べるように、大規模イベントへの発展も視野に入れています。既存イベントとの連携を図る等の工夫で無理なく続けられる方法を検討し、地域の子どもたちが持続的に学べる場となるよう取り組んでいきたいと考えています。



e-スポーツで対戦



真剣な表情でプログラミング



クイズも合わせて実施



プログラミングしたロボット見守る様子



● 実施地域・場所  
京都市山科区

● 参加学生数  
122名

# 山科のお祭りを盛り上げたい

京炎そでふれ！部 Tacchi

## 担い手不足に悩む地域のお祭りを支える

本学の位置する京都市山科区では、地域でのお祭りが活発に行われている一方で高齢化により担い手が不足してきています。地域のお祭りの担い手となっている方々から、「お祭りの人手が足りない」「集客（広報）に困っている」といった声を伺う機会があり、何か貢献することができないかと考えました。京炎そでふれ！部 Tacchiは、京都学生祭典から生まれたよさこい踊り「京炎そでふれ！」を踊る課外活動団体で、主に学生祭典や大会を中心に演舞を披露しています。見るだけではなく、参加して楽しめるようなお祭りを目指そうという想いから生まれた「京炎そでふれ！」を活かして、地域のお祭りを盛り上げたいという思いで本プロジェクトを実施しました。

## お祭りの特色に合わせて企画

本プロジェクトを通して3つのお祭りに携わることができました。お祭りごとに対象や趣旨、参加人数が異なるため、主催者の方と打合せを重ね、それぞれに合わせた企画を準備しました。10月に開催された音羽小学校での「音羽ふれあい広場」では、演舞披露と小学生を対象とした体験会を実施しました。体験会では、手作りのフラッグを配り、一緒に演舞に参加できる時間を設け、世代を超えて演舞を楽しむ機会となりました。また、11月に開催された食楽音祭「山科縁日」と同時開催の「軒下バザール」では演舞披露と体験企画「総踊り」を行いました。子どもたちや保護者の方も、声かけをきっかけに演舞に参加してくださり、「一緒に踊れて楽しかった」「参加してみるとより身近に感じた」といった声をいただきました。路上に設けられたステージは観る方との距離がとても近く、会場全体が一体感に包まれました。同じく11月の「ふれあい“やましな”2025区民まつり」ではステージでの演舞披露とごみ分別ボランティア活動を実施しました。ゴミ分別の活動では直接お祭りの運営に貢献できるだけでなく、「さっき踊ってた子たちやね、すごかったわー」と、地域の方たちに声をかけていただいたり、地域の子どもたちが手伝ってくれたりといった交流が生まれました。



旗を振って演舞に参加

## 今後の活動に向けて

地域イベントで交流を深める上では、参加者同士の一体感を生み出すことが重要であると感じました。来場者が「見る側」から「参加する側」になる企画は、今後も継続していくべきだと考えています。また、より多くの人を呼び込むために、SNSの活用や地域団体との連携など、広報方法の工夫も重要です。これらの改善を重ねながら、お祭りで地域の人々が自然と集い、一体感を共有できる場として本プロジェクトを継続していきたいと考えています。



音羽ふれあい広場



軒下バザール



区民まつり

# 山科「ふるさとの会」と連携した山科の歴史遺産魅力発掘プロジェクト

考古学研究室山科遺跡魅力発掘チーム

- 実施地域・場所  
京都市山科区、奈良県橿原市
- 参加学生数  
12名

## 山科「ふるさとの会」と山科・西野山地域を探访

本プロジェクトは、京都市山科区を中心に活動する「ふるさとの会」の良さを活かしたまちづくりを進める会（以下、ふるさとの会）と連携し、地域の歴史や遺跡を広く伝えることを目的とした活動です。「ふるさとの会」は、歴史遺産学科と2021年度から協力して遺跡調査などを行ってきましたが、スタッフの高齢化が進み、活動の継続が課題となっていました。そこで、地域のニーズに応える形で、学生が協力しながら山科の遺跡・遺産巡りを企画しています。山科区の西野山地域には、征夷大將軍として知られる坂上田村麻呂の墓が存在するという文献史料があります。「西野山古墓という名前だけは知っているが、実物を見たい」という声をいただき、今年度は西野山古墓と西野山地域の歴史を対象に調査を進めました。具体的には、西野山古墓が本当に坂上田村麻呂の墓であるか、その真偽を検証するため、出土遺物を対象とした考古学的調査を行い、年代特定を試みました。



作成した資料

## 資料だけでは得られない知見

調査結果をもとに、11月29日（土）に山科の遺跡・遺産巡りを開催しました。当日は、約80名の方にご参加いただき、「西野山古墓の探究」をテーマに発見の経緯、出土した遺物の紹介、坂上田村麻呂との関係や遺物の年代について発表を行い、参加者とともに西野山地域を歩いて巡りました。学生から参加者へ遺跡の解説をするだけでなく、西野山地域を地元の住民の方々と歩きながら話を伺い、当時の生活環境や家業としての牛の飼育、お祭りの様子など、西野山地域の暮らしについて学ぶことができました。活動を通して、専門的な調査の実践の機会になったと同時に、実際にまちに出てお話を伺うことで、資料だけでは得られない知見を得ることができました。

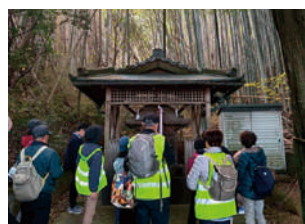
また、京都市営地下鉄柳辻駅の「アートロードなぎつじ」にて関連する考古資料を展示するとともに、奈良県橿原市にて開催された「古代武器研究会」でもポスターセッションを行うなど、今回明らかになった地域の歴史を広く発信する活動も行いました。

## プロジェクトを継続し、地域の活性化につなげるために

「ふるさとの会」との連携は今後も継続し、山科区内の寺院などをテーマに次年度も研究を進めていく予定です。また、プロジェクトに取り組む中で、考古学研究室で普段取り扱わない専門外の古文書や資料を扱う場面が増えると考えられるため、どのように対応していくか検討しています。今後も地域の歴史を学び、それを多くの市民に伝えることで、山科に対する愛着を深めてもらい、地域の活性化につなげたいと考えています。



事前学習会



遺跡・遺産巡り当日



柳辻駅にて展示



# おとでつながる！ こども音楽体験プロジェクト

## 吹奏楽部

- 実施地域・場所  
京都市山科区(東部文化会館)
- 参加学生数  
112名

## 学生主体で創る地域音楽交流プロジェクト

本プロジェクトは、音楽を通じて地域とつながり、子どもたちに生の音楽に触れる機会を提供することを目的として企画しました。特に、幼児期・学童期の子どもたちにとって、音楽を「聴く」だけでなく「体験する」ことが、音楽への興味や親しみにつながると考え、体験型の演奏会や楽器体験を実施しました。地域の子どもたちが楽しみながら音楽に触れられる場を創出するとともに、学生自身にとっても、地域との関わりを通して学びを深める機会となることを目指しました。

## 笑顔を届けた演奏会と楽器体験

10月4日(土)に実施した「おとでつながる！こども音楽体験プロジェクト」では幼保連携型認定こども園 おおやけこども園の園児を対象に、指揮者体験やミニ演奏会を開催しました。手作りのマラカスをプレゼントし演奏に参加してもらうことで、音楽をより身近に感じられる工夫を行いました。また、1月31日(土)に実施した「たちばな！おとあそびたいけんひろば」では楽器体験イベントを実施し、山科区内の小学生約57名に参加いただきました。低学年の部と高学年の部に分け、打楽器や管楽器の音出し・演奏にチャレンジしてもらいました。

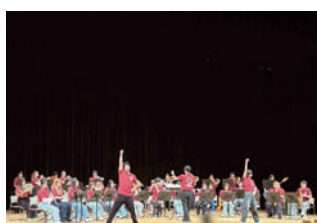
運営の中では、参加者目線での企画設計・広報の重要性や、学年ごとの発達段階に応じた内容づくりの必要性を実感しました。保護者の方からは、「楽器に触れ合える機会を得られてよかった」「細かく声をかけていて良かった」「楽しそうに飛び跳ねながら楽器の音を楽しんでいる姿を見ることができ、幸せな時間だった」など、多くの温かい感想をいただきました。また、「本当に楽器をやりたいと思ったようだ」「今後も機会があればうれしい」といった継続を望む声もあり、地域における音楽体験の場への期待の高さを感じました。

## 継続的な音楽体験の機会を

本プロジェクトは、山科区「はぐくみ」ネットワーク実行委員会、京都市山科区役所「山科まちづくりチャレンジ応援事業」、京都市東部文化会館、おおやけこども園、山科区内の小学校など地域の各機関にご協力・ご連携いただき実現しました。地域全体で子どもたちの学びと体験を支える一員としてイベントを企画運営することができ、得難い経験となりました。音楽が人と人をつなぎ、温かい空間を生み出す力を実感できたことも大きな成果です。学校部活動の地域移行が進む中で、子どもたちの文化芸術に触れる機会づくりに貢献できるよう、継続的な音楽体験の機会を創出していきたいと考えています。



告知チラシ



いっしょに踊れる曲も演奏



楽器演奏体験



指揮者体験



# 10時だよ！全員集合！ 伸ばそう健康寿命

smile(看護学科有志)

- 実施地域・場所  
本学キャンパス内
- 参加学生数  
6名

## 高齢者の介護予防を目的とした取り組み

本プロジェクトでは、地域で暮らす高齢者を対象に、介護予防を目的としたイベントを実施しました。高齢化の進展に伴い、無理なく健康を維持できる取り組みの必要性が高まっていることを背景に、自宅でも継続できる運動の普及を目指して企画しました。運動機会の創出に加え、地域内のつながりづくりも意識した取り組みです。



手ぬぐい体操

## 交流や安心感が運動意欲を向上

イベントは本学看護学部看護学科主催の体力測定会と併せて2日間開催し、来場者へ「手ぬぐい体操」と「風船バレー」に参加いただきました。体操では参加者と共に動きを確認しながら行い、自宅でも実施できるよう解説プリントを配布しました。風船バレーでは学生・参加者同士の交流ができるよう、楽しみながら身体を動かせる内容としました。グループで協力し合い、笑顔や自然な会話が多く生まれました。118名の方に参加いただき、無理のない範囲で身体を動かし、配布資料を見ながら自主的に体操に取り組む姿も見られました。アンケートでは「楽しかった」「また参加したい」との声が多数寄せられ、楽しさを伴う活動が参加意欲を高めることを実感でき、学生にとっても、介護予防には運動内容だけでなく、交流や安心感を生む関わりが重要であることを学ぶ機会となりました。

## 継続可能な運動習慣作りに向けた課題と工夫

一方で、自宅での継続状況を把握する仕組みが十分でない点や、参加者の身体状況に応じた段階的な運動提示の必要性が課題として明らかになりました。また、学生主体の活動であるため継続体制の構築も課題となります。今後は、定期開催の仕組みづくり、内容の改善、地域関係機関との連携強化によって継続的な運動習慣作りにつなげたいと考えています。動画や資料の活用、参加者へのフォローを通して、無理なく続けられる介護予防活動へ発展させる工夫が必要だと感じました。



風船バレー



- 実施地域・場所  
京都市山科区、京都府向日市
- 参加学生数  
100名

# 備えようその瞬間

## 防災サークルFAST

### 市民の防災意識の向上を目的にしたプロジェクト

京都学生FASTは、「Fire And Safety Team」の頭文字をとった京都府公認の学生ネットワークで、京都府内の大学生消防防災サークルで構成されています。本学では防災サークルFASTとして、健康科学部救急救命学科の学生を中心に、総合心理学部総合心理学科など学部学科を超えて防災に関心を持つ学生が参加しているサークルです。本プロジェクトでは、京都府でも甚大な被害が出ると考えられる南海トラフ地震が起きた時に備え、避難所開設の流れや災害に対する市民の備えを再確認し、意識を高めることを目的に、さまざまなイベントで防災に関するワークショップを実施しました。



避難所で用いられる段ボールベッドを体験

### さまざまな活動の機会をいただいた2025年度

11月2日(日)には京都府向日市寺戸公民館での避難訓練「あつまれ！130人のリアル避難所体験」に参加しました。2024年度の活動の中で連携が生まれた、防災フードシェアリング等の活動を行う「ミンナソラノシタ」と共同で実施し、企画段階から加わらせていただきました。当日は一次救命処置の講習や、新たな試みとして、避難所における心理的な状況・ケアの必要性についての展示を行いました。また、12月6日(土)には山科区小野学区自主防災会と連携し、児童及びその家族の防災減災知識の向上と実習を行いました。バーチャル消火体験や防災バッグ作り等、子どもたちが楽しく参加でき、実際に役立つ体験ができるように工夫を凝らした4つのブースと防災クイズを用意しました。1月29日(木)には京都市立東総合支援学校の生徒を対象に防災の授業を実施し、段ボールベッドやペットボトルランタン作りの体験等を行いました。各イベントで対象者や実施形式に合った企画を考え、防災を身近に感じてもらえるよう、工夫を凝らしました。

### 地域と連携し、活動の深化を目指す

活動を通して、子どもやお年寄り、障害を持つ方の防災について、また、女性への一時救命処置等、対象者に合わせた防災の重要性を実感し、深く学ぶことができました。今年度の活動を踏まえ、今後も地域団体と協力し、実際に災害が起きたときの避難所生活等を考える機会を提供できるイベントや、単発ではなく継続的に実施できるイベントを企画していきたいと考えています。



一時救命処置のレクチャー



避難所での精神衛生について掲示



ペットボトルでランタンを制作



- 実施地域・場所  
京都市山科区
- 参加学生数  
8名

# 地域交流拠点を活用した ふれあい健康イベント

コミュニティ・バンク京信山科支店×作業療法学科有志学生

## 地域企業と連携した健康づくりプロジェクトの実践

本プロジェクトは、コミュニティ・バンク京信山科支店（以下、山科支店）と連携し、山科地域の活性化を目的として実施した地域連携活動です。健康科学部作業療法学科の有志学生が中心となり、柳辻駅近くの山科支店2階コミュニティホールを会場として、脳や身体機能の維持・向上を図る多様なプログラムを展開しました。プログラム内容は大きく三つあります。第一に脳トレクイズでは、季節に合わせた問題や日常生活で身近な病気に関する内容を取り上げ、楽しみながら知識を深められるよう工夫しました。第二にものづくりでは、ハーバリウムや手作りフラワーを制作し、活動後も自宅で楽しめる作品づくりを通して、参加者同士や学生との交流を促しました。第三に運動プログラムでは、ラダーを用いたステップ運動や認知症予防体操「コグニサイズ」、チーム対抗のボール転がしなどを実施し、笑顔あふれる雰囲気の中で心身の健康づくりを支援しました。



告知チラシ

## 季節ごとの継続的なイベント参加が実現

今年度は9月・11月・1月の計3回開催し、延べ46名の方にご参加いただきました。複数回参加してくださる方や、ご友人を誘って来場される方も見られました。アンケートでは「学生と交流できて楽しい」「チームで協力して取り組めたのがよかった」といった声が寄せられ、世代を超えたつながりの場としての意義を改めて確認することができました。山科支店の会場で実施することで大学まで足を運ぶことが難しい高齢の方も参加しやすくなったほか、お客様への案内など、集客面でも助けていただきました。2025年には山科区の高齢化率が京都市内で最も高くなったことを踏まえると、地域に身近な拠点で健康づくりの機会を提供する意義は一層高まっています。学生にとっても、作業療法の専門知識を地域で実践する経験を通して、対象者理解やコミュニケーション力、企画運営力の向上につながる貴重な学びの機会となりました。

## 今後の課題と地域連携の展望

一方で、運営面では課題も明らかになりました。学年ごとに授業や実習日程が異なるため、報告・連絡・相談が十分に行き届かない場面がありました。この経験から、早い段階での役割分担や具体的な進行計画の策定、余裕を持ったスケジュール管理の重要性を学びました。また、地域住民への周知方法をさらに検討し、自治会や関係機関との協力を広げることで、継続的かつ発展的な活動へとつなげていきたいと考えています。綿密な計画と柔軟な対応力を両立させながら、地域に根ざした健康づくりの拠点としての役割を果たしてまいります。



コグニサイズ



季節の脳トレクイズ大会



手作りフラワー制作



制作の中で生まれる交流

# 中高生年代の居場所 「ゆうすぺーすやましな」の活用促進

山科区役所×総合心理学科大久保ゼミ×建築デザイン学科有志

- 実施地域・場所  
京都市山科区
- 参加学生数  
13名  
(総合心理学科8名、建築デザイン学科5名)

## 中高生年代の居場所「ゆうすぺーすやましな」を広める

本プロジェクトは、山科区役所内に設置されている中高生年代の居場所「ゆうすぺーすやましな」(以下、ゆうすぺ)の周知と利用促進を目的として、総合心理学科総合心理学科大久保ゼミを中心に企画・実施したものです。中高生年代が安心して過ごせる場所の存在を知ってもらい、実際の利用につなげることを目標とし、山科区役所地域力推進室と連携し、空間コーディネーターの湯浅靖代様(おきにのうつわ)、京都市ユースサービス協会、総合心理学科の南波英和助教、工学部建築デザイン学科の学生などさまざまな団体・個人と意見を交換しながら、12月のイベント実施に向けて夏から企画を進めました。また、イベントやゆうすぺ自体の広報のため、チラシ作成やSNSの活用にも取り組みました。



イベントの広報チラシ

## 空間への愛着や満足感が生まれるイベントに

当日は、ゆうすぺ内で使用するパーティションのデザインや制作を子どもたちと一緒に行いました。自分たちが関わって作り上げることで空間に愛着を持ってもらい、「また来たい」と思える場所づくりを意識しました。また、開催日がクリスマスに近かったことから、クリスマスに関連した簡単なお菓子のデコレーション企画も実施しました。アイスブレイクや共同作業を通して自然な交流が生まれ、初めて参加した子どもたちも打ち解けやすい雰囲気をつくることができました。想定より少人数での実施となりましたが、参加してくれた子どもたちは楽しんでくれたようで、笑顔や達成感が見られたことは大きな成果でした。特に、自分たちでデザインから絵付けまで行ったパーティションが形になったことで、空間への愛着や満足感が生まれている様子がうかがえました。

一方で、イベントの周知方法・タイミングについては課題が残りました。今回のイベントは、ゆうすぺの利用対象者に加え、将来利用対象者となる小学5・6年生も募集しましたが、結果的に少人数の参加となりました。また、多くの方が関わるプロジェクトの中で、連携の意見が集まる心強さと、意見を集約し実行可能な形にまとめる難しさを実感しました。ゼミ内での進捗共有や役割分担の明確化、期限管理の徹底など、組織的に動くための仕組みづくりの重要性を学ぶ機会となりました。

## 地域へ“もう一つの居場所”の存在を周知したい

今回の経験から、まず「対象は誰か」「その対象にとって本当に必要なものは何か」を丁寧に分析することの重要性を学びました。企画内容や表現方法の工夫が今後の課題です。また、地域の方々にも家庭や学校以外の“もう一つの居場所”の存在を知っていただき、居場所に悩む子どもと出会った際に自然につないでもらえる環境づくりも効果的だと考えています。



出来上がったパーティション



四季をテーマにデザイン



クリスマスのお菓子デコレーション

# 醍醐地域における子ども・ 子育て層が住みやすいまちづくり

醍醐いきいき市民活動センター×有志学生

- 実施地域・場所  
京都市伏見区
- 参加学生数  
4名

## 秋祭りへの参画と実態把握の取り組み

本プロジェクトでは、醍醐いきいき市民活動センターと連携し、子ども・子育て世代が安心して過ごせる居場所づくりを目指し活動をしており、今年で4年目になります。今年度は、9月27日(土)に開催された「だいごゆめもり秋祭り」にて、子ども向けのチョコバナナの販売ブースを担当しました。ガチャガチャによって特典が当たる“おみくじ要素”を取り入れることで、子どもたちが楽しみながら参加できる仕組みを工夫しました。あわせて、購入してくれた子どもたちに、最近よく遊んでいる場所や遊び方を地図上にシールで示してもらう「子どもの遊び場調査」を実施しました。販売という形をとりながらも、遊びを通して地域の実態を知ることが目的とした取り組みです。来場者は300名を超え、チョコバナナも早期に完売するなど、大きな反響を得ることができました。



チョコバナナブースの様子

## イベントを通じて生まれる交流と、可視化を通じた学び

当日は学生も浴衣を着用して参加し、来場者からは企画を高く評価する声を多くいただきました。また、他ブースの団体へ備品を貸し出したことをきっかけに新たな交流が生まれ、イベントは多くの人の支え合いによって成り立っていることを実感しました。継続して関わる中で、地域との信頼関係が少しずつ積み重なっていることも感じています。調査で集めたデータは整理し、地図上に可視化しました。その結果、子どもたちの遊び場の分布や、活動が十分に届いていないエリアの存在が見えてきました。さらにフィールドワークや地域住民への聞き取りを行い、交通量の多さや球技ができる公園の少なさなど、具体的な地域課題も把握しました。感覚ではなく、データをもとに地域を捉える経験は、今後の企画づくりをより根拠あるものにする第一歩となりました。

## 対話と実践を重ねながら関係性を育む

口コミや広報の成功により、昨年を大幅に上回る来場があり、購入できなかった子どもがいたことは課題として残りました。今後は来場者数についてもデータ分析を行い、イベント準備にも活かしていきたいと考えています。また、調査で得られた結果をどのように具体的な企画へ反映させるか、活動の背景や意図を次の世代へどう伝えていくかも重要なテーマです。

本プロジェクトを通して、地域連携は即時的な成果を求めるものではなく、対話と実践を重ねながら関係性を育んでいく過程そのものであると学びました。今後もデータの活用と丁寧な関わりを大切にしながら、地域とともに活動を発展させていきます。



ガチャガチャを設置



学生はゆかた姿で参加



子どもの遊び場調査を実施



調査結果を分析し活用